興陽トピックス

令和4年12月23日発行
発行元：岡山県立興陽
高等学校総務課

地域とともに　未来を目指す

二学期は、一年間で最も行事が盛りだくさんの学期です。例年実施されている制作展・体育祭・文化祭等の学校行事以外にも、今年度は様々な取組が行われました。キーワードは「地域とともに」。その取組の中には、生徒が主体となって、岡山県南地域の発展に貢献するものも見られました。今号では、令和四年度二学期の学校の様子を紹介します。

二年生修学旅行

九月六～九日、二年生が修学旅行で北海道に行きました。九月の実施は三年ぶりとなります。出発前にはコロナの感染状況や台風の接近で出発が危ぶまれましたが、天候にも恵まれ、生徒は大自然を満喫しました。

アクティビティーで笑顔いっぱい大興奮。

優勝目指して…　体育祭

九月三〇日、まだまだ暑さの残る中、令和四年度の体育祭が実施されました。コロナ禍で実施も危ぶまれましたが、予防対策をとりながら、保護者の方の観戦の中での実施となりました。
今年も生徒主体ということで、生徒会・体育委員を中心に生徒みんなで体育祭を創り上げ、生徒全員の楽しそうな笑顔が印象的でした。
優勝は緑ブロック（L3・H3・D2・A1・M1）、クラス対抗の優勝はM3でした。

（上）位置について ヨーイ ドン!
みんな一斉にスタート。
（左）3ブロック、全員集合!!

色鮮やか！　制作展ファッションショー

十月八日、玉野市のみやま公園で制作展を開催しました。コロナ対策を徹底した上で三年ぶりの通常開催となり、三年間の学習成果を披露することができました。家政科は焼き菓子販売・福祉保育発表、被服デザイン科はファッションショー・作品展示を家族の方に見ていただくことができ、生徒たちは満足感と達成感で一杯でした。また、農業科は冬ブドウ紫苑の販売、造園デザイン科はハーバリウム体験や、ショーのドレスに合わせたブーケなどの制作を通して、会を盛り上げてくれました。最高のロケーションと天候にも恵まれ、思い出に残る制作展となりました。

地域に貢献！マラソンボランティア活動

十一月十三日、三年ぶりにおかやまマラソンが実施されました。国道三〇号線コース沿いの給水所ボランティアに、約二百人の興陽高校生が参加しました。当日はあいにくの雨天でしたが、ずぶ濡れになりながらもランナーに給水と声援を送りました。
おかやまマラソン実行委員会事務局から、「高校生ボランティアのおかげでおかやまマラソンが実施できた」と、とても感謝されていました。

「頑張ってください！」
ランナーに励ましの声をかけ、給水所でカップを渡す興陽高校のボランティア。

クラスで一致団結　文化祭

十一月十八日・十九日に文化祭が行われました。
「MIX～みんなで彩る興陽色」のスローガンのもと、各クラスで団結して創り上げたステージ発表や展示は興陽高校らしさがあふれ、すばらしいものばかりでした。
ステージ発表の部では、「鬼滅の刃」「剪定のレンジ」「L3の優秀な展示」（写真左）、「H3の真右）、「A1プレゼンツAutumn Festival」（写真左）が最優秀賞を受賞しました。
笑顔が絶えない文化祭となりました。

生徒が主人公。校則変更の取組

十月七日、生徒会が来年度からの校則変更案を全校生徒・教職員の前で発表しました。現行の校則は「普段の姿そのままで企業の採用試験に臨める」ことが基準となっているため、生徒会は生徒からの要望だけではなく、求人票を持参してくださっている企業の方々へのアンケートや意見交換会、弁護士の方にも助言をいただきながら、髪型・ソックス丈・スカート丈・メイク等についての基準を定め、校則案を作成しました。この他、男女共通の基準を設けるジェンダーレスに向けての提案もありました。生徒自身の自発的な取組に、生徒・教職員からの拍手は鳴り止みませんでした。
今後生徒会と教職員で意見交換を行い、来年度までに決定する運びです。生徒自身がルールを作り、それを生徒自らが守る。全国の高校に先駆けた興陽高校生の自発的な取組です。来年度の校則はどのようなものになるのでしょうか。今から楽しみです。

（上）報道陣や多くの企業の前でプレゼンをする、生徒会の生徒たち。
（下）全校集会で校則変更案を発表。

本校家庭クラブの取組が　最優秀賞を受賞

十一月十八日、第六十九回岡山県高等学校家庭クラブ研究発表大会が開催されました。本校は、学校家庭クラブ活動をまとめたスクールプロジェクト「はやく元気になってね！～点滴用パジャマの製作～」で最優秀賞を受賞しました。
発表の内容は、「さらしを使って、闘病中の子どもたちが、点滴を取り外すことなく着替えができるパジャマを製作する」というものです。点滴用のパジャマは市販品が少なく高価であるため、一般的には普及しておらず、子どもたちやご家族、医療関係者の皆さんの力になれたらと研究をはじめました。現在も研究は続けており、今年度中に、五〇着製作する予定です。

共に高めあう　芳泉高校生との交流

十月十四日を皮切りに、本校農業科の生徒と芳泉高校生（以後「芳泉生」）との交流が始まりました。芳泉生はこれまで四度にわたって本校を訪れ、施設や農作物の見学、稲刈り見学・体験を行いました。先生とともに本校生徒も説明を行って芳泉生との交流を深めました。芳泉生は、本校の広大な圃場や最新の設備、本校の実習内容に驚いた様子でした。
また、本校農業科三年生が芳泉高校を訪問して、岡山大学農学部の入試の過去問を共同で解く取組を始めました。普通科高校の知識と専門高校の体験を融合してよりよい解答を導き出そうとディスカッションを行いました。この交流の中で、お互いの高校の魅力を再発見したり、「一緒に岡山大学へ入学しよう」と大学進学に向けてのモチベーションを高めたりする姿を見ることができました。
この取組は、来年度以降も発展させていく予定です。ともに刺激し高め合い、県南地域を発展させる人材へと成長していってもらいたいと思います。

（右）柿を素材に学びあう生徒たち。
（左）芳泉生と向かい合って入試問題に取り組む本校農業科の生徒たち。みんなで意見を出し合って、解答を作っていきました。